よせもじ

寄席文字を書いてみよう！

見て美しく、書いて楽しい。

江戸文字には「橘流寄席文字」のほかに「歌舞伎文字勘亭流」、「根岸流相撲字」があり、提灯や千社札に使われる文字も「江戸文字」と呼ばれています。今回は、諏訪台中学校３年生のジュニア記者が通っている中学校の名前から「すわだい」の文字を書くことになりました。さて、ジュニア記者の腕前は？

橘右橘師匠を紹介

1952年、台東区生まれ。本名・中村泰士。1971年、橘流寄席文字家元・橘右近に師事。2003年、荒川区登録無形文化財(寄席文字・勘亭流文字・江戸文字)となる。現在は鈴本演芸場、国立劇場などで筆耕を務める。著書に『図説／江戸文字入門』(河出書房新社)がある。荒川区伝統工芸技術保存会役員。

まずは見学！

寄席文字を知ろう

①まずはお手本として右橘師匠がジュニア記者の名前を寄席文字で書いてくれました
②③初めて寄席文字を見たジュニア記者。すらすらと動く右橘師匠の筆を見て、「難しそうだけどやってみたい！」と興味津々です

同じ筆を使って書く文字でも、学校でやる習字とは全然違うね

磯谷徳仁くん

ひとつひとつの文字に思いを込めて

寄席文字はひとつのマス目を客席に見立てて書きます。この書き方(筆の運び方)について右橘師匠は、「お客さんがたくさん入るよう黒々と肉厚に、できるだけ空間を埋める。尻上がりに客足が延びるようにという願いを込めて右上がりに。大きなハネは習字のように跳ね上げないで逆から持ってきて、客足を内へ込める。寄席文字は縁起を担いだ文字なんですよ」と教えてくれました。

そして体験！

寄席文字、上手に書けるかな

筆の持ち方、角度、ひねり方が独特でおもしろい！

小林知生くん

文字を書くより、絵を描く感覚で

いよいよ寄席文字の体験。飛田さんが「す」、小林くんが「わ」、川田さんが「だ」、磯谷くんが「い」を担当することに。右橘師匠のお手本を見ながら、自分が担当する文字をひたすら練習！ 美しく書くコツは「教えられた通りに筆を動かすこと。文字ではなく、絵を描くつもりでやってみて」と右橘師匠。習字では筆を縦に持つと習いますが、寄席文字は鉛筆と同じように筆を持ちます。

①②筆をひねりながら側面を使って線を書きます。紙を押さえると筆が立ってくるので、紙を動かしながら書けるよう文鎮は使いません
③④習字の筆の持ち方に慣れているジュニア記者は苦戦していましたが、だんだんと書けるように。あっという間に練習の時間は終わり、緊張しながらも清書します

上手に書けました！

▲ジュニア記者が書いた文字を並べると「すわだい」に。寄席文字は漢字よりもひらがなの方が難しいそうです

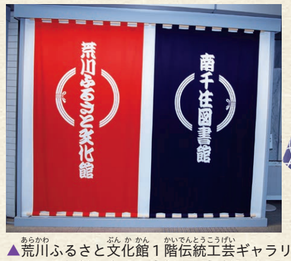
▲右橘師匠が書いたお手本

体験を終えたジュニア記者たちは「寄席文字は難しかったけど、勉強になり楽しかった！」と、達成感いっぱいの清々しい表情でした。「書いているうちに形になってきたね。みんな頑張りました」と右橘師匠に褒めてもらいました。

何度も練習して納得のいく文字が書けました

飛田咲和さん

右橘師匠の作品はこちらです！



▲荒川ふるさと文化館１階伝統工芸ギャラリーの日除幕の文字は右橘師匠の作品だよ

◀荒川区伝統工芸技術保存会の半てんの文字も！

▶上野にある鈴本演芸場の番組に使われる木札。落語家「志ん生」師匠の名前を特別に書いた作品

川田真央さん

伝統技術をどう守る？

「技術だけを教えても意味がない、仕事として受け継ぐのが基本」と右橘師匠。右橘師匠の技術と仕事は、弟子の橘さつき(銘苅由佳)さんが受け継いでいます。

▶「荒川の匠育成事業」の修了生の銘苅由佳さん

第39回 あらかわの伝統技術展のご案内

荒川区在住の伝統工芸技術保持者を中心に、伝統工芸技術や手作りの素晴らしさを紹介します。

日時：7月6日(金)～8日(日)
午前10時～午後5時
会場：荒川総合スポーツセンター
入場料：無料(体験コーナーなど一部有料のイベントもあります)